

# ロープ状製剤の新型ハマキコン- Nの防除効果

## [研究のねらい]

- ・ 交信攪乱剤ハマキコン-Nは、チャノコカクモンハマキとチャハマキに対する密度抑制効果に優れ、IPM体系の基幹技術になっている。
- ・ しかし、既存剤では10a当たり250本の取り付け作業が必要で、労力面で大きな負担になるとともに、使用済みディスペンサーの残渣が圃場に残る欠点がある。
- ・ 最近、取り付け労力の大幅削減が可能で、使用後に回収可能なロープ状製剤のハマキコン-N(写真1、2)が開発されたので、その実用性を評価する。

## [研究の成果]

- ・ ロープ状製剤のハマキコン-Nは、既存剤250本/10a相当の50m/10aの設置とし、圃場の畝方向に沿った両サイドとほぼ中心位置に、支柱を使って張った(写真1)。
- ・ ロープ状製剤区の誘引阻害率は、チャノコカクモンハマキ、チャハマキともに第2世代まで100%であり、既存剤区と同等以上であった。しかし、第3世代ではやや低下した(表1)。
- ・ ハマキムシの幼虫密度は、ロープ状製剤区、既存剤区ともに、いずれの種、いずれの世代でも1.0頭/m<sup>2</sup>以下であり、慣行防除区とほぼ同等であった(データ省略)。
- ・ なお、現地圃場における試験においても、ロープ状製剤区の誘引阻害率は比較的安定しており、密度抑制効果も高かった(データ省略)。
- ・ 以上より、ロープ状製剤のハマキコン-Nは、既存剤とほぼ同等の実用性があり、普及性は高い。

表1 ロープ状製剤・ハマキコン-N 処理区におけるフェロモントラップによる誘殺数と誘引阻害率

	ロープ状製剤 (50m/10a)		既存剤 (250本/10a)		無設置区	
	チャハマキ	チャノコカクモンハマキ	チャハマキ	チャノコカクモンハマキ	チャハマキ	チャノコカクモンハマキ
誘殺数						
越冬世代	0	0	0	0	119	966
第1世代	0	0	11	0	154	714
第2世代	0	0	6	1	92	553
第3世代	57	39	34	21	731	1567
誘引阻害率%						
越冬世代	100.0	100.0	100.0	100.0	-	-
第1世代	100.0	100.0	92.9	100.0	-	-
第2世代	100.0	100.0	93.5	99.8	-	-
第3世代	92.2	97.5	95.3	98.7	-	-

注) 交信攪乱剤は5月9日に設置した。越冬世代成虫数は、設置以降の合計値。



写真1(左)  
ロープ状製剤の  
ハマキコン-N



写真2(右)  
使用済みのロープ  
は簡単に回収可能